

# スクラム

～立志・挑戦・感動～

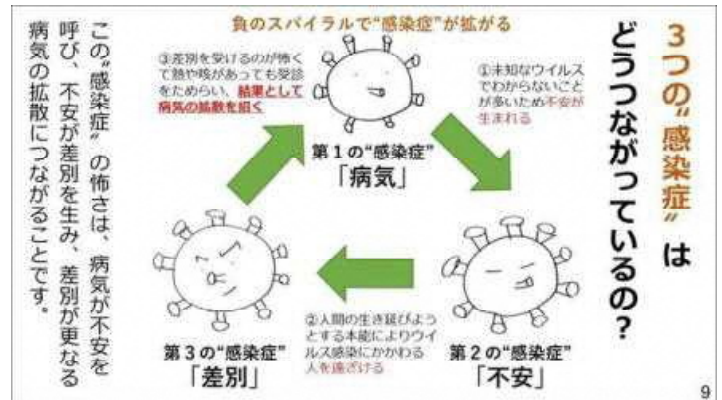
## 浮羽中学校学校通信

第8号（6月1日発行）

文責 校長 高倉 満

### 今の状況から考えさせられること～どうして偏見や差別が生じてしまうのか～

□人間が営む生活において、あらゆる状況や場面で偏見や差別が生まれているといっても過言ではありません。2011年の東日本大震災による福島第1原発事故では、福島など東北の人々が「原発いじめ」や「風評被害」にさらされ、不当な中傷や差別を受ける苦しみを知る人は多いはず。そして今、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、医療関係者やその家族、感染者やその近親者等が中傷、差別を受けていることが大きな問題となっており、ニュース等でも報じられています。リスクを負い、最前線で働く人たちの心を傷つける行為、感染者等への非難はマイナスでしかありません。



今こそ、私たち一人一人の言動が問われていると思います。差別や偏見について、日本赤十字社は「負のスパイラルを断ち切るために」としてホームページに載せていますので、ぜひ一度は見ていただきたいと思っています。その中で新型コロナウイルス感染症が怖いのは「3つの感染症」という顔があるからだと分析しています。

「3つの感染症」とは、病気という身体的感染症、不安や恐れという心理的感染症、嫌悪・偏見・差別という社会的感染症です。ここで注目したいのは、未知のウイルスが生む病気への不安や恐れから、本来の「敵」であるウイルスではなく、病気にかかわる人を直接的な嫌悪対象にして偏見や差別をして安心感を得るということです。そしてそれが症状を自覚しても受診をためらう人を生み、さらなる感染拡大につながる…。

病気が不安をよび、不安が偏見・差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながるという、この負の連鎖が感染症がもつ怖さであり、社会全体の団結力や抵抗力も弱めてしまうということです。では、偏見・差別をなくすためにはどうすればよいのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症は誰もが感染し得ることと、誰もが気づかないうちに他人に感染させてしまう可能性をもっている…だから冷静に感染症を正しく知って怖がり、「中傷や差別」ではなく、「支援や感謝、敬意」を抱いて、できることをしていくことではないでしょうか。日本赤十字社のホームページでも、確かな情報を広め、差別的な言動に同調せず、それぞれの立場でできることを行って負の連鎖を断ち切ろうと呼びかけています。

世の中には、社会的カテゴリー(性別、人種、年齢、出身地、職業など)によって、生じてしまう偏見や差別があります。現在では、インターネットによる人権侵害(デマ・偏見等の悪質な投稿)も増え、偏見や差別が拡大されている状況もあります。してはいけないことだとわかっていながらも、なかなかなくなるのも事実です。

私たちは、間違っている意識や行為、その理由を正しく見抜く力や態度を身につけていくことが必要ではないでしょうか。それが人と人とのつながりをつくり、皆が大切にされる社会の実現につながると思っています。ぜひ、この機会に『なぜ偏見や差別が生じてしまうのか、どうすればなくすことができるのか』を考えてみてください。

みんなが真剣に考えることで、7月の「人権学習」が、さらに充実したものになると思っています。